

## 創立150周年記念事業企画提案募集 表彰式の実施について

7月から9月にかけて学内で募集を行なっておりました記念事業企画提案募集には、教職員、学生等から計18件の提案をいただきました。

ご提案いただいた皆様、ありがとうございます！

記念事業実行委員会にて選考を行ない、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞5点を選定、1月6日に表彰式を行ないました。

今後は、記念事業実行委員会において記念事業実施の具体化について検討していきます。



### ◇受賞企画一覧

賞	提案タイトル
最優秀賞	150周年記念映画作成
優秀賞	創立150周年記念出版プロジェクト
優秀賞	京都府立医科大学創立150周年記念インタビュー
特別賞	次世代イントラネットを使用した希少手術・高難易度手術・カテーテル治療のライブ送信システムおよび仮想現実／拡張現実に対応した高機能視聴覚システム整備事業
特別賞	府立医科大学バーチャル歴史ミュージアム
特別賞	京都府立医科大学ミュージアム(仮称)開設
特別賞	附属病院の病院案内の多国語(主に英語)表記・ピクトグラムの整備
特別賞	「がん教育」京都モデルの開発事業

提案内容の詳細については次ページ、企画提案一覧をご覧ください。

## 創立150周年記念事業企画提案募集 提案一覧

賞	提案者	提案事業名	概要
最優秀賞	浮村 理 場的 聖明 村尾 俊道	150周年記念映画作成	本学卒業生である、大森一樹氏の監督により、江戸末期から明治初頭にはじまるの地域医療に根ざした、医療関係者のチームワークと150年後の現在、「ヒポクラテス達」から続く、医療の進歩と人材育成を描く。全国ロードショーにふさわしい劇場映画を目指す
優秀賞	磯邊 綾菜 橋本 寛子	京都府立医科大学創立150周年記念インタビュー	京都府立医科大学の「人」の魅力に着目し、本学教員、学生、職員、医師、研究者、留学生、卒業生のインタビュー動画を撮影、HPで公表することで各人の経験を共有する。これによって、本学に関わる人々の交流を促進し、より良い医療機関・研究機関・教育機関を目指す。
優秀賞	村尾 俊道 樽野 陽幸 土屋 ちひろ	創立150周年記念出版プロジェクト	150周年を契機として、本学での実践を世の中に広く発信することによってブランド力の向上を目指す ①受検生（医師・看護師・研究者を志す学生）を増やす ②現職の看護師離職率の低下、研修医・専攻医・研究医の確保（モチベーションの向上）を実現すると共に、この出版プロジェクトを通じて、プロジェクトに携わる大学、病院職員の方々に体験価値を提供する。
特別賞	avatars	府立医科大学バーチャル ヒストリーミュージアム	府民や医療者を志す若者に、京都府立医科大学の歴史と未来をバーチャルに体験する機会を提供し大学の魅力や価値を広く発信する。（インターネット上に動画掲載） 動画作成は京都芸術大学等に協力を依頼
特別賞	武藤 倫弘	「がん教育」京都モデルの開発事業	京都府民における「がん」及び疾患リテラシーの向上を目的に、「がん教育」副読本の作成。シンポジウム開催をきっかけとしたステークホルダーとの連携。京都府内小・中・高等学校における「がん教育」授業の講師派遣などを行う。
特別賞	天谷 文昌 田尻 達郎 青井 重善	次世代イントラネットを使用した希少手術・高難易度手術・カテーテル治療のライブ配信システムおよび仮想現実／拡張現実に対応した高機能視聴覚システム整備事業	本学附属病院で実施されるあらゆる高難易度手術・カテーテル治療・麻酔科バイタルサインモニターに、術者の術中の助手への指導内容の会話などを次世代イントラネットを介し、本学3キャンパスに構築するラーニングコモンズに配信。VRやARシステムを応用した視聴覚システムにより体験型実習を行うシステムを整備する。
特別賞	落合登志哉	京都府立医科大学ミュージアム(仮称)開設	青蓮院に前身である療養所が開設されてから150年の間に本学から生まれた治療法や薬、治療器具、あるいは社会に及ぼした影響はあまたあるものと思われる。歴史の一端は現在講堂や青蓮院の2階に一部展示されているがこうした本学の誇るべき業績を一か所に集め、体系的に展示する施設を開設し、本学関係者や府民に公開する。
特別賞	松本 芳紀	附属病院の病院内の多言語(主に英語)表記・ピクトグラムの整備	本学附属病院医療現場において多言語表示・対応など外国人患者受入の環境整備を行うことで、現代のグローバル化に対応して患者ニーズに適ったサービス向上を目指す大学の姿勢をアピールする
		学生証IC化によるキャンパスインテリジェント化計画	学生証をICカードに変更・統一し、学生証や図書館利用、施設の入退室管理を一体化することで、事務の効率化とセキュリティ向上を図る。
		生涯にわたって医療人としてスキルアップするためのトレーニングラボ事業	シュミレーターやVRなど新たな技術を用いたトレーニング方法を検討し、それらを包括できるようなトレーニングラボを設置する。 OSCEなどの試験実施も想定し、高度医療から在宅看護まで学べる施設を作る。
		国際シンポジウム	150周年事業に際して祝祭期間中にOne day international symposiumを開催する。 海外の連携校から講演者を招聘し、日本・本学との関係、本学が海外から学ぶべきもの、本学へのこれからの期待を講演していただく。
		図書館の未来像:先進医学教育・統合情報センター Center for Innovative Medical Education and Information Technologies (CIMEDIT)	図書館が、臨床トレーニングを含む教育機能の高度先進化とその統合を図り、医学書・文献のみならず電子化された臨床体験知を学生、医療従事者、医学研究者に提供するライブラリとしてステップアップすることを目指す。学生に、居住空間として、グループ学習等を介し、様々な人・モノ・情報等とコミュニケーションできる場所を提供すると共に、一般人にも有用な医学情報第1期:図書館のメディアセンター化 第2期:臨床体験知トレーニングセンターの確立と事業化
		日本文化交流学習スペース	新教育棟または新研究棟の1階ロビーに、茶道・華道・香道・書道など日本の伝統文化活動の場として、またエキシビジョンや展示の場として、文化芸術的活動及び交流スペースを建設する
		22世紀KPUMレジストリ・バイオバンク・プロジェクト	様々な疾患の患者情報、検査データなどを蓄積したリアルワールドのデータセット構築、新規感染症や稀少疾患など一部の疾患についてゲノム情報も含む生体試料を並行して保存するバイオバンクを設置
		クリニカルシミュレーションセンター開設	COVID-19の流行により学生の学習環境に大きな制限が生じている中、学生や附属病院職員が医療手技に関するトレーニングを行うことができるシミュレーションセンターを設置する
		新型コロナウイルス流行対応の密にならない大容量の講義室と実習室新築	新型コロナウイルス流行が遷延する状況下で、医学科生、看護学科生とそれぞれの大学院生を登校させて講義と実習の対面教育を実現する教育の場が欠落しているため新築する。
		京都府立医科大学ミュージアム+京都府立医科大学ストア KPUMプライドを共有する場の提供	歴史資料デジタルアーカイブ化事業、歴史資料館事業に+αしてオリジナルグッズ事業を統合して広く愛好心を醸成し、本学関係者に未来への責任感の自覚を促す場を作るとともに、本学の歴史と伝統を発信する場を提供する。
		キャンパス整備用地取得事業	20年後の大学の有り様を想起し進めているキャンパス整備に当たり、本学敷地をより有効に活用し、100年後にも、現敷地で発展を続ける本学の基盤を確立するため、用地取得を進める